

「イノベーション創発に資する人工知能基盤技術の創出と統合化」  
平成 29 年度採択研究代表者

H29 年度 実績報告書
-----------------

角田 篤泰

中央大学研究開発機構  
機構教授

AI 技術を用いた法的文書作成支援

## § 1. 研究実施体制

(1) 「研究代表者」グループ

① 研究代表者: 角田 篤泰 (中央大学研究開発機構 機構教授)

② 研究項目

・AI 技術を用いた法的文書作成支援

## § 2. 研究実施の概要

本研究課題では、法令ビッグデータ(本課題では自治体条例・規則のデータが対象)より、機械学習を用いて獲得した法令テンプレートのリポジトリを開発し、それを利用した法令作成支援システム、法令検証システム、および法令執筆教育支援システムの各システムを開発・提供することが最終目的である。このための研究手順として、クラスタリング、テンプレート生成、リポジトリ化、作成・検証・教育の各システムの開発、提供・検証、改良の順で行い、提供・検証と改良のスパイラルを何度も回すことで研究が実施される。法令テンプレート作成方式の概要は次の図の通りである。

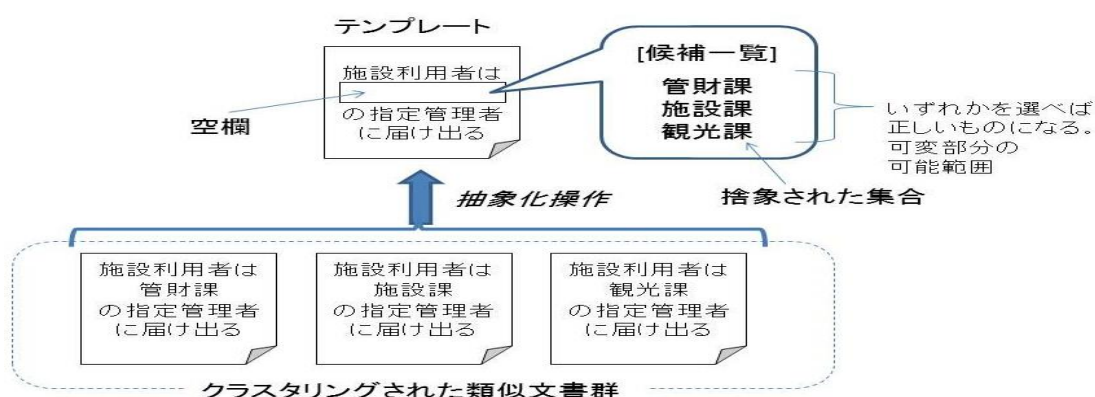


図 法令テンプレート作成方式の概要

H29年度は、この中で、次年度実施されるクラスタリングの準備を行うことが主要な研究項目であり、これを実施した。予定されていたH29年度の実施項目についてはほぼ完了している。各項目は次の通り。

- (1) 実験環境の準備や実験用計算機の調達を行った。
- (2) 実験用の20自治体程度の条例・規則のサンプルデータを抽出・加工した。このとき、実験しやすいようにPythonから利用するための実験用ツールも開発した。
- (3) 各種クラスタリングためのプログラム開発を行った。
- (4) サンプルデータによる実験によって、クラスタリング方式の分析を行った。
- (5) 実データとして、全国自治体の条例・規則について、約1700団体分のデータ(約120万件)を収集し、加工した。この作業はH30年度にクラスタリング処理を行う準備である。バラバラの条例・規則の形式を統一したり、計算しやすいように整えたりした。
- (6) 実験フィードバック用のGUIの開発を行った。これは研究期間中の早い時期からエンドユーザに試用してもらい、フィードバックを得るためのGUIである。

本研究の今後の見通しとしては、人的な労力を集中させて意味的な分析を行い、その結果を反映した改良を行うが、現在のところ、計画通り進行する予定である。